

用語の解説

ICT

「Information and Communication Technology」を略した言葉。ネットワークやコンピューターを用いてコミュニケーションを取ることが可能になる技術のこと。

GIGAスクール構想

「Global and Innovation Gateway for All」を略した言葉。小中学生に1人1台の端末配布と高速ネットワークを整備し、教育現場で活用する取り組み。

学習指導要領

全国どここの学校でも一定の水準が保てるように、国が定めている教育課程の基準で、10年に1度改定されています。児童生徒の教科書や時間割は、これを基に作られています。

教育目標

糸満市教育委員会は、糸満市教育振興計画を令和6年8月に定め、国・県の教育目標のほか、市の基本理念や将来像に基づき、教育に関する目標を定め、さまざまな施策を展開しています。

変わる学びの姿

IoT、AI、ビッグデータ、ロボット、5G。国は、これらの技術を活用することで、現代社会が抱える課題や困難を克服し、人々が快適で質の高い生活を送る人間中心の社会を目指しています。

そこで、国は子どもたちがこれからの社会に参画するための資質や能力を身につけてもらうと、令和元年度から「GIGAスクール構想」に取り組み、本市においても、令和3年度から児童生徒1人に1台の端末を整備したほか、通信ネットワークの整備が進められました。

また、このような背景を受

- 特集 - 変わる学び。変わらない思い。

ICTでひろがる！ 子どもたちの新しい学び

急速に進むデジタル化の波は、私たちの暮らしをより良いものにしてきました。そして、子どもたちが育つこれからの社会は、変化の速度がこれまで以上に速く、多様な価値観や新しい技術が次々と生まれる時代です。そうした環境の中、学びの

あり方も大きな見直しが進められてきました。

近年、全国の学校ではデジタル機器を取り入れた教育体制が整い、糸満市でも授業の進め方や子どもたちの思考の深まり方に新しい風が吹き始め、画面上で資料を比べたり、自分の考え

をその場で可視化したりと、これまでとは異なる発想で学びに向き合う姿が見られています。

今回は、こうした変化の背景とともに、市内の小学校で行われている取り組みと子どもたちの反応について紹介します。

けて、令和2年度からは新学習指導要領が段階的にスタート。新しくなった要領では「将来の予測が難しい社会の中でも、未来を創り出していくために必要な資質・能力を確実に育む教育」「未知の社会を生き抜く力を育む教育」を理念に掲げています。中でも「情報活用能力」が言語能力や問題発見・解決能力と同様に、育むべき重要な能力として位置づけられました。

ICTの広がりにより、これまでの授業風景は大きく変わり始め、電子黒板を使って写真や挿絵を映し出すことで児童生徒の興味・関心を高めるほか、ICT機器を使うことで、1人1人の反応や考え

を即時に把握しながら、双方向に授業を進めることができるようになりました。

ともに創る学び— 糸満市のICT活用の今

現在、市内の学校現場では、整備されたICT機器を活用し、児童生徒たちが自身にあった学習方法を選択する「個別最適な学び」と、他の人の考えに触れて自身の考えを深める「協働的な学び」の一体的な充実を図るとともに、「自学自習力」を育む取り組みを展開。これらの実践は全て「多様な価値観に基づき、自ら学ぶ意欲を育て、学力の向上を目指すとともに、持続可能な社会の創り手とな

る幼児児童生徒を育成する」という糸満市の教育目標につながっており、学校現場では、教職員が日々試行錯誤しながら、児童生徒1人1人の学びに寄り添っています。

また、学校のICT環境の整備は児童生徒の学習環境に限らず、保護者からネットアンケート形式で提出物を提出いただくなど、保護者の利便性向上のほか、教職員の働き方にも影響を与えています。

ICTを活用した学びは、子どもたちが未来を主体的に切り開く大切なものです。これからも児童生徒の可能性を伸ばす、より良い教育の実現に向けて、ICT機器の積極的な活用を推進します。